

園城寺は、三井寺の通称を
持つ天台寺門宗の総本山で
す。三井寺の「三井」は「倒
井」とも称しますが、これは
園城寺の背後にある長等山か
ら湧出する豊富な水に由来し
ます。天智・天武・持統の各
天皇がこの地の泉井を産湯に
使用したという伝承も残され
ていて、金堂の脇にある伽藍
井がその泉井であるといわれ
ます。また、弁慶の引き摺り
鐘（重要文化財）も有名で
す。

比叡山一帯に寺域を持つ延
暦寺を「山門」と呼ぶのに対
して、長等山の東麓に寺域を
持つ園城寺を「寺門」と呼ん
でいます。境内より出土する
瓦などから、7世紀後半の白
鳳寺院の存在が明らかになっ
ています。現在残る寺院の原
型は智証大師円珍によってつ
くられました。しかし、10世
紀末期に園城寺を拠点とする
円珍派が比叡山との確執から
分裂すると、天台宗主の継承
や戒壇をめぐる「山門」と

「寺門」は激しい争いを繰り
返しました。
けて、その度に堂塔を焼失し
ています。織豊時代にも、豊
臣秀吉が園城寺に願所（所領
没収）を申し渡して堂塔が破
却され、金堂は比叡山西塔
の釈迦堂として移されまし
た。

しかし、その都度時の権力
者から援助をうけて復興をは
たしています。現在残る伽藍
は、秀吉の願所が解かれた慶
長3年（1598）以降に、
秀吉夫人の北政所や毛利輝
元、徳川家康らの寄進をうけ
て再建されたものです。

江戸時代には、中世以来保
持していた特権や権威が否定
されるなど徳川幕府の統制下
におかれるようになり、江戸
時代中期以降になると大津の
名所として多くの参詣者が訪
れるようになりました。

江戸時代の大津は、物資が
集約される港町であり、東海
道と西近江路の分岐点にあつた
宿場町として繁栄していま
した。江戸時代中期以降に

園城寺と江戸時代の参詣



三井寺園井近江八景付歌（筆者蔵）

は、生活にゆとりを持った人
々による社寺参詣が徐々に増
えてきました。さらに、京や
大坂などの名所案内書が出版
されるようになって、各地の
名所が遠くの人々に知られる
ようになると、一大観光地で

性的参詣は認められず、「三
井寺観音」で知られる「観音
堂」しか参詣できませんでした。
特に三井寺観音は、西国
三十三ヶ所観音巡礼の十四番
札所であり琵琶湖を眺望でき
る場所にあつたことから、多
数の参詣者が訪れるようにな
り、門前には旅館屋や茶店が
軒を連ねるなどの賑わいをみ
せたのです。

人々が名所へ訪れるように
なる中、観光案内図のような
ものが作られるようになりま
す。園城寺を題材としたもの
も数多くあり、伽藍を鳥瞰図
風に描いた一枚刷りの印刷物
も様々な種類が残されています。

今回掲載しました「三井寺
園井近江八景付歌」図もその
ひとつです。境内にある主要
な堂塔の位置と名称を大きく
掲載するだけでなく、近江八
景の一つに「三井晚鐘」があ
ることから、近江八景をのせ
てそれぞれに短歌を添えて紹
介されています。

近江八景全体をあわせて紹
介したこのような印刷物は、
現代に例えるなら観光用イラ
ストマップというところであ
ろうか。参詣者の土産物とし
て印刷された、多くの人が参
詣していたころかかわせる
資料ともいえます。

（財団法人滋賀県文化財保
護協会 神保忠宏）

観光マップからみえる人気